

# 小中一体校を見てきました

## ～ 浜松中部学園 視察報告 ～

島田市立初倉地区小中学校再編方針検討委員会

検討委員会では、5月17日に小中一体校（施設一体型小中一貫校）の先進事例「浜松中部学園」の視察を行いました。視察では、学園から学校の概要について説明を受けた後、授業中の校舎や体育館などを見て回り、最後に初倉地区の皆さんからいただいた質問の回答をいただきました。

本報告では、質問への回答や視察を終えての委員の感想などを紹介します。

### < 浜松中部学園開校までの経緯 >

平成19年から地域で組織が立ち上がり小中一貫についての検討が始まり、約10年をかけ、平成29年4月に開校しました。

### < 質問に対する回答の内容（抜粋） >

- ・人数増のメリットとして、行事に活気が出ます。また、競争意識が生まれ、結果だけでなく過程にも良い表れが出ており、多様な考えに触れ、価値観が広がります。
- ・人数増のデメリットとして、休み時間の過ごし方など、小学生と中学生との間で約束事が違うので戸惑うときがあります。また、理科室や運動場などは中学生が優先され、小学生の使用に制限がかかる場合があります。
- ・先生1人が見る児童増のデメリットより、小学生でも教科ごとに先生が変わるので、1クラスを複数の先生が見るメリットの方が大きいです。
- ・遠い家の子は、バス、電車といった公共交通機関を利用する人もいます。
- ・中学生は小学生に配慮しており、しっかりしようという意識が育ちます。

### < 視察に参加した委員の声 >

- ・設備が整っていて、子供たちが学習するにはとても良い環境だと感じました。
- ・放課後は小学生がグラウンドをほとんど使えない、という課題がありました。
- ・中一ギャップがない、ということが一番の印象に受けたことです。
- ・小学校教員が中学卒業時の姿をイメージして指導できることや、中学校教員がこれから上がってくる子の育て方をイメージしやすいことなど、互いの良さを感じられた。
- ・小学生と中学生が交流している場面が見られたら良かった。

※詳細は、市ホームページの概要を御覧ください。

QRコード→



## 桜並木学園つくば市立並木中学校とのリモート会合

施設分離型の小中一貫校についても参考になる情報はないかと考え、平成24年度から小中一貫校をスタートさせている茨城県つくば市の学校を調べてみました。茨城県つくば市内には施設一体型・分離型を合わせて15の小中一貫校があります。学校間の物理的距離や規模として参考になるであろう施設分離型の小中一貫校である、桜並木学園の並木中学校の校長先生と教諭の先生に、学校の取組や児童生徒の様子を、リモートの会合にて教えていただきました。

桜並木学園は並木中学校、並木小学校、桜南小学校による一貫校です。小学校は1学年2クラス。3校の距離も直線距離で700m程度の範囲に所在する施設分離型小中一貫校です。

- 施設一体型と違い、各校にそれぞれ管理職がいます。
- 小中一貫校として統一した教育目標や目指す児童生徒像等を持ち、教育活動に取り組んでいます。日課表や週時程表は各学校の実状に合わせて組んでいます。
- 総合的な学習の時間に「つくばスタイル科」という学習に共通して取り組んでいます。つくば市の全小中一貫校で取り組んでいます。
- 小学校・中学校間で様々な交流があると聞きました。
  - ・小学校の運動会での中学生のボランティア活動
  - ・中学生が小学校に学習サポートに訪問
  - ・中学生が夏休みに、ミニ先生として小学生の宿題をサポート
  - ・小学生が中学校の部活動を見学に訪問
  - ・小学生が中学生の合唱を見学
  - ・「ハートフルタイム」での小中学生合同授業
  - ・中学校教員による小学校での乗り入れ授業
- 6年生から7年生への進級の様子については、7年生の中学校への慣れが早く、中学校に親しみを持って進級してくる様子が見られるとのこと。様々な形での交流を繰り返すことにより、小学生にとっても、中学校はよく知っているところという感覚があるとのこと。
- 中学生にあたる7～9年生の様子については、自分自身も優しくしてもらって中学生になっているためか、中学生は小学生に対して優しく関わる様子が見られると聞いています。
- 施設分離型の小中一貫校であっても、桜並木学園のように特に学校間の距離が近い場合は、それほど移動に時間もかからないので、交流等はしやすいという良さがあります。
- 市内にある施設一体型の小中一貫校のよさは、最新の設備、日々の小中学生のつながり等にありますが、一方で現在児童生徒数の大幅な増加により、収容面で課題が出ている学校も聞いています。

事務局  
教育総務課  
36-7952